

## 『豊平川は遼河に連なる』

函館太極拳研究会 理事長 沢谷進

徐其成 老師と小平孝夫先生、この日中間に架かる素晴らしき太極縁と師弟愛を間近にする機会を連続して得てきた。

中国武術最高段位九段、中国武術無形文化財、瀋陽市武術協会副主席、ジェット リー のコーチである徐其成 老師と、**1975** 年に日中友好協会北海道で残留孤児や中国留学生の支援を続けながら北海道で最初に太極拳を始め、全道に普及し組織化を進め現在の北海道武術太極拳連盟の発展を牽引し続けている小平孝夫先生、この二人の縁は **1982** 年に札幌市瀋陽市友好都市交流の初期の一環として太極拳を指導するために札幌に遼寧省より徐其成 老師が派遣されたところより始まる。

北海道の大地に初めて中国武術太極拳の真髄を体得し体現する人間が降り立った瞬間である。

筆者もこの時の徐其成 老師の表演に総毛立ったのを生涯忘れることができない。

またそれが、現在の自分の太極拳への探究の揺るがぬ礎になっている。

この時から双方のいく度とない交流と訪問と学習がはじまり、いつの間にか二人には師弟であり家族のような暖かく強い人間関係が札幌と瀋陽の距離と国情を飛び越えて形成されて行ったのである。

**2009** 年、徐其成 老師は **70** 歳の誕生日を祝うために札幌に招かれ北海道武術太極拳連盟交流大会を苫小牧市体育館で参観した。

小平先生は奇しくも還暦記念の特別表演で徐其成 老師から指導をうけ永年に渡り練り続けた陳照奎伝の陳氏太極拳新架一路を老師の目の前で老師の気魄と風格で若き日の徐其成 老師そのままに表演をし大観衆の声援を受けた。

表演後に師弟は人目を憚らずに涙を潤ませ固く抱き合った。

また表演前に入念に行なう徐其成 老師から指導を受けた武術基本功の数々は **30** 数年間に指導を受けてから弛まず途切れずに継続されてきた「功」が滲み出ている、それを非常に感慨深い面持ちで老師は見つめていた。

その夜、徐其成 老師を歓迎する小さな会が設けられ小平先生と中国武術気功亮鳳会主宰大野耕司先生、筆者の四人で苫小牧駅前通りの居酒屋「千年の宴」の個室で表演後の熱気そのままに杯を交わしていた。

愉快地に和やかに杯も進んでいたその時、徐其成 老師は突然「私は今から小平孝夫を私の正式弟子とする。二人はこの拝師の立会人となれ」と言い放ったのである。

その言葉をその時に上手く聴き取れなかった二人に代わって筆者は「本当ですか？」と問い直したが「本当だ！」と真顔である。

事情を二人に伝えるとすぐに四人は顔を見つめ合い、そして破顔一笑、その後は乾杯乾杯の嵐となった。

この時、伝統を重んじ中国国内でも数少ない弟子の一人として、日本人唯一の正式な弟子が誕生した。時は流れ続け、2016年末に筆者は小平先生と二人新千歳空港から訪中し上海に滞在していた。

治療法の無い難病 ALS に罹患した小平先生の気功治療を傅清泉老師の紹介で受けるためである。

この時に瀋陽から単身、徐其成 老師は小平先生に付き添うため上海に一週間滞在し、小平先生の手を取り、肩をかして、無形文化財の徐其成 老師がこまごまと暖かく立ち回ったのである。

このような出来事が数ある太極拳の師弟関係において起こり得るのであるだろうか？

弟子が師にこのように心から心配し実際に行動を起こすことは、ままたあるであろうが、この名師が日本人の弟子に、である。

筆者はこの二人の人間関係や利害、立場とメンツを超えた奇跡のような真の武徳の出来事に心を打たれていた。

今年 2017 年 10 月 10 日徐其成 老師御一家は、状態が深刻化してきた小平先生を見舞い、お見舞金まで携えて札幌市を訪れた。

この時、小平先生は不自由な状態を押しながら、御一家を水も漏らさぬ接待をし、力の限り暖かくもてなした。

この拙文の題「豊平川は遼河に連なる」は 瀋陽音楽学院副院長 秦咏誠先生が瀋陽札幌の友好都市締結を祝い両市に贈られた曲のタイトルである。

札幌市を流れる豊平川と瀋陽市を流れる遼河の二つの川はそれぞれ日本海と黄海に注いでいるが、両海は国境こえた一つの海を通じて、両市の両河に連なるという両市の中日友好を象徴し祝う曲である。

徐其成 老師と小平孝夫先生は、この曲のタイトルのように国境を越え国家を超えて太極拳を通じて遂には固く繋がり一つになったのである。